

多発性のう胞腎でお困りの患者さんはいませんか？



医療法人社団 養生館
苫小牧日翔病院



苫小牧日翔病院 副院長
泌尿器科・透析センター 医師 **坂本 和也**

平成4年 北海道大学 卒業

- 資格
- 日本泌尿器科学会 専門医／指導医
 - 日本性感染症学会 専門医
 - 日本がん治療認定医機構 指導責任者／専門医
 - ICD（感染症専門医）
 - 日本抗加齢医学会 専門医
 - 日本透析医学会 専門医

遺伝性の希少な疾患である多発性のう胞腎に対して、平成26年に世界初の治療薬（サムス力錠®）が国内で発売されました。

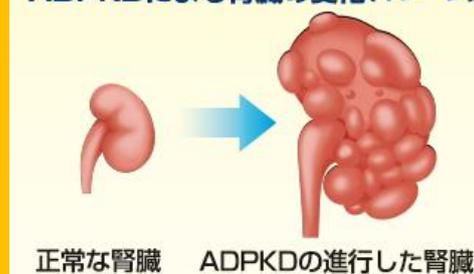
多発性のう胞腎は平成27年1月から指定難病となり、特定医療費の申請が認められると治療費の自己負担が少なくなります。

当院では診断や治療を積極的に行っておりますので、ご心配なことがありましたら何なりとお問い合わせ下さい。

<多発性のう胞腎とは？>

- ◆ 腎臓にのう胞（液体の詰まった袋）が多数でき、それが徐々に大きくなって腎臓が本来の機能を失っていく遺伝性の病気です。
- ◆ 30～40歳代までは、ほとんどの症状があらわれないことが多いですが、この病気の人のおうち半数は、70歳までに人工透析が必要になるといわれています。

ADPKDによる腎臓の変化(イメージ)



不安なこと、心配なことがあれば、お気軽にご相談ください。

Tel (0144) 72-7000
苫小牧日翔病院 地域医療連携室まで

